



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

第1回幹事会を開催

組織拡大方針を補強

単組シニア組織の洗い出しと
役員・書記局OBの入会促進

JAMシニアクラブは12月5日、2018年度「第1回幹事会」をJAM本部12階会議室で開催し、定期総会以降の活動と新役員体制の確認、及び2019年度政策実現活動を含む活動方針の具体化について協議した。地方シニアで主催する政策制度に関わる研修会へ補助金を給付することを確認した。また幹事会の前段の時間を使って今年の政策制度の主要テーマである介護保険制度について講演を受けた。

JAMシニア政策実現委員会を設置

講演では退職者連合 菅井義男事務局長を講師に「介護保険の改革の方向と問題点について」約1時間学習した。

現在、厚生労働省は「医療と介護の一体的な改革」を目標として来年4月を目途に診療報酬と介護報酬の同時改

が持たないから家庭へというのは本来家庭での介護が大変だから制度化したものを元に戻すことで介護離職や主婦に負担がかかることを懸念。さらに介護事業者への報酬体系の欠陥を指摘し、政府の成果に応じた財源配分の導入に対しては機能する仕組みが必要なこと。介護における人材不足

自民党安倍一強の政治にブレーキをかける筈であった第48回衆議院選挙は、大敗に終わった。私は、解散前の民進党では政権交代は望むべきもないが、せめて国会で、政権の暴走を阻止し、よりの国民に幅広く支持されるような政策の実現と、憲法改悪を阻止するために野党が小異を捨て大同団結し、選挙での躍進を切望していた。

望の党合流をきっかけとした民進党の分裂、相も変わらぬ選挙準備の不足、折角衆議院選挙で効果を上げていた野党統一候補の実現が不十分等々数多くある。もし、野党統一候補ができてい

これから国会は、自衛隊の存在を明記した憲法改正に向かって突き進んでいくだろう。その時の改憲の口実の一つに北朝鮮の核問題がある。北朝鮮に、いくら圧力をかけても、開発のスピードを遅らせることはできても、北

小異を捨て大同に 平和主義に徹した外交を

九州山口シニア会長 松井 勝昭

中国もロシアも本音の部分では、アメリカに対抗する為に北朝鮮に核を持たせることは容認するが、核は使わせたくないという事ではないか。北に核を

主張



選挙直前の状況は、森友・加計学園問題、共謀罪法案の強行採決など安倍内閣の強権的政治手法に批判が高まり、内閣支持率も下落し、野党は解散前よりも議席を増やせる状況下にあった。しかし、結果は、自民党284議席、自・公を合わせて313議席と衆議院議席の三分の二を越える与党の大勝。

選挙大敗の原因は、公示直前の予想もしなかった突然の希

それ程までではないにしても、自民党はこのような大勝はありえなかった。民進党は、その生い立ちから意見の違いもあり、分裂も時間の問題だったかも知れないが、次の選挙は、小異を捨て大同につき野党統一候補での選挙で一強政権打倒を目指して欲しい。

に警鐘と処遇改善の重要性を強調した。その上で診療報酬・介護報酬等に関する退職者連合の考え方を説明した。幹事会にはJAMの職場を訪問中の田中ひさや副会長も駆けつけ、3カ月間の活動を語り、「限られた時間、多くの皆さんと会い政策と理念を伝えていきたい」と意気込みを語った。来賓の川野副書記長は挨拶後そのまま意見交換に参加した。協議事項の①組織拡大はシニアクラブ未加入の単組シニア組織を洗い出し対策を検討。シニア組織結成の可能性のある単組を絞り込み地方シニアと対策を進める。未加入の地方役員OB、書記局OBの入会促進を進める。②地方シニアで主催する政策制度に関わる研修会への補助については地方からの申請により幹事会承認を経て給付することを確認した。③2019年政策実現では、大山会長を委員長とする「JAMシニア政策実現委員会」を設置することとした。

東京

武蔵野の面影が残る 神代植物公園と深大寺を散策

水間 英夫通信員



JR中央線の「三鷹駅」に集合。肌寒さを感じながら、ご夫婦を含む41人が参加した。

第18回目となる「東京・街歩き」は、10月17日に武蔵野の面影が残る調布の「神代植物公園」から「深大寺」を散策した。午前10時、

トシーズン。大温室では、珍しい熱帯植物に囲まれた通路を進み、蘭のコーナーでは、彩り鮮やかに花が咲き誇り、種類も多きことからつい見入ってしまう方も多く見られた。なかでも、チョコレート

う。深大寺は奈良時代・天平5年(733年)に開かれた大変な歴史ある古刹。多くの人がまず向かったのは、今年、国宝に指定された「釈迦如来像(通称・白鳳仏 飛鳥時代・国宝)」で、穏やかな優しい表情にはついつい魅入ってしまう、自然に手を合わせてしまつ

大寺山門を出たすぐの所の「門前」というお蕎麦屋さんで、今年度から新会長となった長岡さんの乾杯でスター

ト。肌寒さの中での散策でしたが、ビールもおいしく話も弾み、名物の深大寺蕎麦に皆さんご満足の様子。食後の

のデザートが溶んだ頃、改めて長岡会長の締めのご挨拶をいただき、次回の「街歩き」での再会を約束し解散した。

愛知

第17回定期総会を開催 6議案を全会一致で確認

熊谷 悠之通信員



18年度予算(案)、2018年度役員選出、並びに2019年に実施される参議院選挙JAM組織内候補者「田中ひさや」氏の推薦など全6議案とも全会一致で承認決定した。

どの活動に取り組む。第2部は研修会を開催し安藤雄氏(愛知県健康福祉部技師)を講師に招き、「お菓との上手な付き合い方」をテーマに、①くすりを安全につかうために、②ジュネリック医薬品、③健康食品と医薬品についての講演を受けた。

治の動きの最中の10月13日、JAM千葉シニア定期総会を開催。モノレール千葉みなどのそばの「ポートプラザちば」で、総勢44人の参加。この日は「長い、長い戻り秋雨」の初日で寒い天気でした。

面白。政治の激しい動きから政治とは、政党とは、組織とはなにか、多くの示唆を与えてくれた。分断排除でなく団結が重要との答えを得た。最後にシニアクラブ大山会長、東京シニア長岡会長、東京千葉有田副委員長、千葉県退職者連合会石田会長、中央労金千葉支店田野次長、全労済千葉県本部鬼沢支所長の皆様激励挨拶ありが

JAM愛知シニアクラブは、10月28日(土)「ワークライフプラザ」れある6階ホールにて会員及び現役地協役員60人の出席で第17回定期総会を開催した。

議長に榎本弘明幹事を選出、主催者を代表して屋敷英雄会長から私たちが今後活動するにあたっての政治・経済・労働情勢の背景にふれた挨拶がされた。来賓のJAMシニアク

ラフ木村正次副会長、JAM東海井上猛書記長、斉藤喜隆参議員、岐阜・三重シニアの代表から祝辞を賜り総会に花を添えて頂いた。議案では2018年度活動計画(案)、20

具体的活動計画は、①組織拡大は勿論のこと、②会員相互の交流を深めあえる交流会の実施、③安全・安心の担保が得られるJAM共済への加入促進、④政策実現活動の推進な

第3部では会員間の交流懇談会を開催し、お互いに健康でシニア組織の活動に参加することを誓い合った。

総会は「千葉シニアクラブは地域の仲間と接点を持ち、孤立せず生き甲斐を持って、生活できるように年間通して活動してきた。しかしながら行事参加者は年々減少し、参加者

の固定化、高齢化にあり、新しい会員を増やすことが最重要」との問題提起から始まり、2019年参議院比例代表に、千葉の仲間である「田中ひさや」氏擁立特別決議で共に闘うことを決定。畑山会長の「団結頑張ろう」で終えた。その後、懇親会は参加者全員の挨拶で政治の話や自己紹介などで会場は盛り上がった。全員の挨拶は